

令和 2 年 10 月 14 日現在

機関番号：35408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12358

研究課題名(和文) ラオス伝統的民謡を活用したヘルスプロモーションモデルのタイ肝吸虫症対策への応用

研究課題名(英文) Application of health promotion model using Lao traditional folk song toward a control of liver fluke infection

研究代表者

吉田 いつこ (Yoshida, Itsuko)

安田女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：90635088

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：タイ肝吸虫症対策のために、ラオス伝統的民謡「ラム」を活用した健康教育教材を社会学習理論とEntertainment-Educationのアプローチに基づき開発した。開発した教材は、対象地域で約6か月間の介入を実施し、その教育的効果を評価したところ、介入後にタイ肝吸虫感染経路および予防方法に対する知識は介入前よりも有意に上昇し、魚の調理法に関する修正すべき信念は改善する傾向にあった。しかし、タイ肝吸虫感染の深刻さに関する認識は下がる傾向にあり、媒体の改善点が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

途上国における健康教育は、健康のメッセージを伝達する様々な媒体が開発されてきたが、その媒体を効果的に活用できる人材が少ないという問題があった。口承伝統を用いた健康教育は、健康教育を実施する人材教育を行わなくても媒体を視聴することで効果があり、特に、これまで困難と考えられてきた住民の伝統的な信念を変化させることが可能であることが示唆された。この知見は、ラオスのみならず、タイ肝吸虫症の流行地域であるタイ、カンボジア、ベトナムにも展開可能である。またタイ肝吸虫症対策だけでなく、そのほかの様々な公衆衛生上の問題解決にも活用することができると思われる。

研究成果の概要(英文)：As a countermeasure for Thai liver fluke, we have developed a teaching material for health education using Lao traditional folk song "lam" based on the theory of social learning and the approach of Entertainment-Education. When the educational materials developed underwent an intervention for about 6 months in the target area, and their educational effects were evaluated, the knowledge of the Thai liver fluke infection route and preventive measures increased significantly after the intervention, and Corrected beliefs about recipes tended to improve. However, awareness of the seriousness of Thai liver fluke infection tends to decline, suggesting improvements in the medium.

研究分野：ヘルスプロモーション

キーワード：ラオス伝統的民謡 タイ肝吸虫 ヘルスプロモーション

1. 研究開始当初の背景

タイ肝吸虫症は、メコン川流域のタイ・ラオス・カンボジア・ベトナムでみられる風土病である。この地域の人々は、魚を生または十分に加熱していない状態で調理した料理を好んで摂取する習慣がある。特に、そういった料理には、タイ肝吸虫が寄生しているコイ科の淡水魚が使われ、それが媒介し感染にいたる（WHO, 2017）。長期間放置すると胆管癌の発生リスクが高まるため、深刻な公衆衛生上の課題となっている（Sripa et al, 2012）。

ラオスにおいては、主に首都を含む中南部の地域に 200 万人以上の人々が感染していると考えられており（Sithithaworn et al., 2012）。しかしながら、地域住民のタイ肝吸虫症に関する知識や関心は乏しく（Phongluxa et al., 2013）、予防対策が十分にとれていない状況である。また住民はライム汁やトウガラシには殺菌効果がある、アリが木の葉を接着して巣作りをするときに体内から排出する白色の液体は、調理する際に生魚と混ぜると魚肉を白く変色させる作用があることから、魚肉を加熱したことと同じ効果があると信じていた（Xayaseng et al., 2013）。このような人々の長年の経験から培われてきた信念は、知識の伝達だけでは容易に変えられない。

Yoshida ら（2012）は、ラオス人のコミュニケーション形態である口承伝統（oral tradition）に着目し、健康に関するメッセージを効果的に伝達する手法の開発を行ってきた。その口承伝統の特徴が表れているのが、ラオスに古くから伝承されている伝統的民謡であり、文字情報に頼らない人々が様々な情報を伝達してきたコミュニケーション媒体である（虫明, 2010）。この媒体を活用して開発した健康教育教材は、対象者を惹きつけ民謡の中で叙述される健康障害が聴衆の身の上におこりえる現実的な問題として考えさせた。また、対象者のラオス人としてのアイデンティティにも働きかけ、問題解決のために自らの文化や伝統を見直させた（Yoshida et al. 2012; 2018）。このように伝統的民謡にのせて語られるメッセージは説得力を持って聴衆に働きかける効果があり、人々の変え難い土着の迷信や信念を修正し、望ましい健康行動に導くことが期待できる。

2. 研究の目的

- 1) ラオスで流行しているタイ肝吸虫症対策のために、伝統的民謡「ラム」を活用した健康教育教材を開発する。
- 2) その教材がどのように地域住民のタイ肝吸虫感染予防に関する知識、関心、予防行動、住民の変えがたい信念を変化させるか、地域住民が健康のためにどのような行動を起こしていくのか検証する。

3. 研究の方法

- 1) 対象地域：本研究では、当初、ラオス南部のサラワン県サラワン郡にて実施する予定であったが、2018 年に発生した豪雨災害で対象地域へのアクセスが困難であったため、対象地域をヴィエンチャン市 S 郡に変更した。2015 年の同地域での調査では、中学生の 39.0% がタイ肝吸虫に感染しており（Yoshida et al. 2019）、流行地域といえる。
- 2) 教材開発：Bandura（1977）の社会学習理論と Entertainment-Education のアプローチに基づき、次のステップで開発した。
 - (1) 先行研究（Xayaseng et al., 2013）から、住民のタイ肝吸虫に対する認識、感染源となる魚の調理法に関する信念、生魚を用いた料理の文化的意味、感染した際の行動などを抽出し、教材の物語の構成要素とした。
 - (2) 物語の構成は、ラオスの典型的な農村部の家族を登場人物とし、家長である父親が生魚料理を頻回に摂取し、タイ肝吸虫に感染する。体調の異変に気付くが病院には行かず、伝統的医療に頼り手遅れとなり死に至る。このストーリーを通して、修正すべき信念や受診行動を浮き彫りにした。望ましい行動は、遺された家族が、自らの誤った信念が導いた結果であると気づき、自らの食習慣や受診行動を改めていく様子を描き、聴衆にモデルを示した。
 - (3) このストーリーのスク립トをラオス語に翻訳したものを伝統芸能団の作詞家が伝統的民謡の歌詞にアレンジし、伝統的民謡歌手が唄い、音声を録音した。
 - (4) 物語に応じた映像を撮影し、(3)の音声にあわせて編集し、ミュージックビデオとして作品を完成させた。
- 3) 介入研究
 - (1) 対象者
ヴィエンチャン市 S 郡の 2 村（介入群、対象群）を選び、参加協力が得られた村民各村

100名

- (2) 介入方法
介入群に対しては、タイ肝吸虫症対策用に開発した視聴覚教材を対象者に配布し、週に一度、村内の小学校で放送した。これを4か月間実施した。対照群に対しては、調査期間中は何も行わない。
- (3) データ収集方法
熟練した調査員が対象者に面接し、質問紙の順に口頭で回答を得、調査員が記入した。調査時期は、介入前、介入終了後とした。
- (4) 調査内容
質問紙調査に含まれる項目は、タイ肝吸虫に関する知識、認識している深さ、魚料理の調理法や食べ方に関する信念、生魚料理の摂取頻度、トイレの使用頻度、保健医療機関へのアクセス、社会経済的屬性とした。
- (5) 分析方法
介入群と対照群の差の検定には Wilcoxon test、介入前後の差の検定には Friedman-test を用いた。

4. 研究成果

- 1) タイ肝吸虫症対策のためにラオス伝統的民謡を活用した視聴覚教材を Bandura (1977) の社会学習理論と Entertainment-Education のアプローチに基づき開発し、CD化した。
- 2) 開発した教材は、対象地域で約4か月間の介入を実施し、その教育的効果を評価したところ、介入後にタイ肝吸虫感染経路に関する知識は、対象群が低下したのに対して、介入群は有意に向上した ($p < 0.05$)。予防方法に対する知識は、対象群、介入群とも前後で変化はなかった。信念に関しては、「トウガラシが細菌や寄生虫卵を殺す」が対象群、介入群ともに低下した ($p < 0.01$; $p < 0.001$)。「ライム汁が細菌や寄生虫卵を殺す」では対象群に変化はなかったが、介入群では低下した ($p < 0.001$)。「生魚とアリの排泄物、スパイス、アルコール、湯を混ぜると加熱処理した状態と等しくなる」、「生魚料理を食べると疲れ知らずに働きどこへでも行くことができる」の2項目は、介入群では有意に低下した ($p < 0.01$) が対象群では増加した ($p < 0.01$)。「生魚料理を食べることは私たちの文化を維持するために重要である」は、対象群では変化はなかったが、対象群では低下した ($p < 0.05$)。開発した教材が変えがたいと考えられていた対象者の信念にアプローチし、変化をもたらせたと考えられた。一方、タイ肝吸虫感染の深刻さに関する認識は、対象群は上がったのに対して介入群は下がる傾向にあり、媒体の改善点が示唆された。

< 引用文献 >

- Itsuko Yoshida, Sabitri Sapkota, Kongsap Akkhavong (2018) Entertainment-Education using traditional folk song among female factory workers in Lao PDR, *Journal of Community Medicine & Health Education*, 7:507 DOI: [10.4172/2161-0711.1000507](https://doi.org/10.4172/2161-0711.1000507)
- Itsuko Yoshida, Osamu Horie, Kongsap Akkhavong (2019) Predictors of hookworm and *Opisthorchis viverrini* infection among adolescents in urban Laos: a cross-sectional study. *Research and Reports in Tropical Medicine*, 10, 1-11
- Itsuko Yoshida (2019) Application of Health Promotion Model Utilizing Lao Traditional Folk Songs to Liver Fluke Control. *Impact*, Volume 2019, 7, August 2019, 32-34

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Itsuko Yoshida, Osamu Horie, Kongsap Akkhavong	4. 巻 10
2. 論文標題 Predictors of hookworm and Opisthorchis viverrini infection among adolescents in urban Laos: a cross-sectional study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Research and Reports in Tropical Medicine	6. 最初と最後の頁 31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.2147/RRTM.S199577	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Yoshida Itsuko, Sapkota Sabitri, Akkhavong Kongsap	4. 巻 7
2. 論文標題 Entertainment-Education using Traditional Folk Song among Female Factory Workers in Lao PDR.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Community Medicine & Health Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4172/2161-0711.1000507	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Itsuko Yoshida	4. 巻 2019
2. 論文標題 Application of Health Promotion Model Utilizing Lao Traditional Folk Songs to Liver Fluke	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 32-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21820/23987073.2019.7.32	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Itsuko Yoshida	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Scholars' Press	5. 総ページ数 90
3. 書名 Entertainment-Education using traditional folk song in Lao PDR	

〔産業財産権〕

[その他]

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	堀江 修 (Horie Osamu) (50304118)	天理医療大学・医療学部・教授 (34606)	
研究 分担者	椋 清美 (Handou Kiyomi) (50774246)	山陽女子短期大学・その他の部局・准教授 (45404)	